ロングレンジリーダライタ EEPROM 設定引き継ぎの方法

発行日 2018年5月8日 <u>Ver 1.00</u>

◆本資料の対象機器

引き縦	き後 機器	引き継ぎ前 機器		
製品型式	備考	製品型式	備考	
TR3X-LDU01	ロングレンジ 1ch	TR3-LD003C-S TR3-LD003C-L	ロングレンジ 1ch	
TR3X-LN01	ロングレンジ 1ch	TR3-LN003D-S TR3-LN003D-L	ロングレンジ 1ch	
TDOV I DINO1 4	ロングレンジ	TR3-LD003D-4	ロングレンジ 4ch 切替	
TK3A-LDUN01-4	4ch 切替	TR3-LD003D-8 TR3-LN003D-8	ロングレンジ 8ch 切替	



マニュアル番号: TDR-OTH-EEPROM-LONG-1W-100

はじめに

このたびは、弊社製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

本資料では、機器設備更新等でリーダライタを置き換えされるお客様向けに、旧機種のリーダライタの EEPROM設定を新機種へ引き継ぐ方法を説明しています。

■本書内で参照している説明書、および使用ツール 本書内では、下記の手順書や説明書を参照し、各種ツールを使用しています。 ご使用前に、下記 URL よりダウンロードされることをお勧めいたします。

□ 参照する手順書および説明書

- ➤ TR3RWマネージャ取扱説明書 (TR3RWManagerの各種機能の使用方法を説明します)
- ▶ LAN インターフェース設定ツール IPSet 取扱説明書 (LAN 設定ツール IPSet の使用方法を説明します)
- ▶ LAN インターフェース設定ツール IPSet2 取扱説明書 (LAN 設定ツール IPSet2 の使用方法を説明します)

□ ユーティリティツール

- ➤ TR3RWManager ※Ver3.50 以降をご使用ください (リーダライタの EEPROM 設定内容の[保存]/[復元]や、変更を行う際に使用します。)
- ➢ IPSet (LAN インターフェース設定の変更ができます、機種により使用するツールが異なります。)
- ➢ IPSet2 (LAN インターフェース設定の変更ができます、機種により使用するツールが異なります。)

□ ダウンロード先

TR3RWManager、LAN インターフェース設定ツール IPSet、IPSet2、およびその取扱説明書 [URL] <u>http://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_utility/</u>

目次

1.1	本資料で使用する用語の説明	. 1
1.2	EEPROM 設定引き継ぎの流れ	. 2
1.3	最新版の TR3RWManager を PC にインストールする	. 3
1.4	旧機種を PC と接続する	. 4
1.5	旧機種で EEPROM 設定を保存する	. 7
1.6	新機種で EEPROM 設定を復元する	10
1.7	機種ごとの必須確認項目を手動で確認・変更する	13
1.7	.1 各種設定 2	14
1.8	S6700 互換モードに切り替える	15
変更履	歷	17

=

1.1 本資料で使用する用語の説明

本資料では、以下の用語を用いて説明を行います。 お客様がお持ちのリーダライタ機器の型名をご確認の上、該当する箇所をお読みください。

・新機種

出力が1W(固定)のリーダライタで、以下の型番の製品のことを表します。

インターフェース/ アンテナ切替機能	RS-232C接続 USB接続 1chタイプ	TCP/IP接続 1chタイプ	RS-232C接続 USB接続 TCP/IP接続 4ch切替タイプ
型名	TR3X-LDU01	TR3X-LN01	TR3X-LDUN01-4

・旧機種

出力が1W(固定)のリーダライタで、以下の型番の製品のことを表します。

インターフェース/	RS-232C接続	TCP/IP接続	多ch切替タイプ
アンテナ切替機能	1chタイプ	1chタイプ	
型名	TR3-LD003C-S TR3-LD003C-L	TR3-LN003D-S TR3-LN003D-L	TR3-LD003D-4 TR3-LD003D-8 TR3-LN003D-8

1.2 EEPROM 設定引き継ぎの流れ

旧機種から新機種にEEPROM設定を引き継ぐ際は、以下の手順で行います。

手順	内容	参照先
手順1	最新版のTR3RWManagerをPCにインストールする	1.3項
手順2	旧機種の電源を入れ、TR3RWManagerを起動してPCと接続する	1.4項
手順3	旧機種でEEPROM設定を保存する	1.5項
手順4	新機種の電源を入れ、TR3RWManagerを起動してPCと接続する	—
手順5	新機種でEEPROM設定を復元する	1.6項
手順6	機種ごとの必須確認項目を手動で確認・変更する	1.7項
手順7	一部コマンド使用時、動作しない時は必要に応じてS6700互換モードに 切り替える	1.8項

1.3 最新版の TR3RWManager を PC にインストールする

旧機種から新機種へのリーダライタの EEPROM 設定の引き継ぎは、ユーティリティツール (TR3RWManager) を使用して行います。

新機種に付属の CD-ROM に収録されている、TR3RWManager Ver3.50 以降をインストールしてください。 また、最新版は弊社 WEB サイトからダウンロードすることが可能です。

インストール手順は、「TR3RWManager 取扱説明書」を参照ください。

「TR3RWManager」「TR3RWManager 取扱説明書」は、以下の WEB サイトからダウンロードできます。 [URL] <u>http://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_utility/</u>

旧機種からの EEPROM 設定の「保存」、新機種への EEPROM 設定の「復元」を行う際には、 必ず Ver. 3. 50 以降の同じバージョンの TR3RWManager を使用してください。 ※設定ファイルに過不足・不整合が生じ、EEPROM 設定が正しく復元できません。

<動作環境>

セットアップを始める前に、お使いになっているパソコンの動作環境をご確認ください。 本ソフトウエアを快適にご利用いただくためには、以下の環境を満たしていることが必要です。 本ソフトウエアには、外部ファイルからのデータ読み取りや外部ファイルへのデータ出力機能が備え られています。それらの機能を利用する場合には、管理者権限を必要とする場合があります。

環境項目	必要な動作条件
CPU 周波数	1.0GHz 以上
メモリ容量	512MB以上
OS	Windows10、Windows8.1、Windows8、Windows7、WindowsVista
.NET Framework	Microsoft .NET Framework 3.5以上
ディスプレイ解像度	1024 x 768 以上

本ソフトウエアは起動時や終了時に設定ファイルの読み書きを行いますので、プログラムを管理者 として実行する必要があります。

「管理者としてログインする」ことと「管理者としてプログラムを実行する」ことは異なります。 「デスクトップ上のショートカット」または「プログラムの実行ファイル」からプロパティを開き、 「互換性」タブの「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れておくことで、 常に管理者として実行することが可能です。

rrsrwm V35 😵	開く(O) ファイルの場所を開く(I) 管理者として実行(A) 互換性のトラブルシューティング(Y)		全般 このプロ のトラフ 互換性	立保に 1グラムがこのパージョンの Winc パレシューティング ツールを実行し 換性のトラブルシューティングッ 10 設定を手動で選択する方対	H 以前のハーション Jows で正しく動作しない場合は、互換 こてください。 「ールの実行 法
	スジート画面にとり留めする		- 互換	モード 互換モードでこのプログラムを実行	行する:
	解凍(X) 圧縮(U)	>	Wi	ndows 8	V
	タスク パーにピン留めする(K) 以前のパージョンの復元(V)		- 設定 [] 1	コラー モードを制限する	_
	送る(N)	>	82	ット (256) カラー i40 x 480 の解像度で実行す?	5
	切り取り(T) コピー(C)			高 DPI 設定では画面のスケー! 管理者としてこのプログラムを実	リングを無効にする 行する
	ショートカットの作成(S) 削除(D) 名前の変更(M)			♥すべてのユーザーの設定	を変更

1.4 旧機種をPCと接続する

ユーティリティツール TR3RWManager を使用して旧機種を PC に接続する方法を説明します。

- (1) 旧機種とPCをインターフェースケーブルで接続し、ACアダプタを接続します。 ※USB接続の場合でもUSBバスパワー給電は出来ません 本体背面のスイッチを[ON]にします。
- (2) TR3RWManagerを起動します。

旧機種からの EEPROM 設定の「保存」、新機種への EEPROM 設定の「復元」を行う際には、 必ず Ver. 3. 50 以降の同じバージョンの TR3RWManager を使用してください。 ※設定ファイルに過不足・不整合が生じ、EEPROM 設定が正しく復元できません。

デスクトップ上に作成されたショートカットアイコン記をダブルクリックすると「TR3RWManager」が起動します。

起動すると次の画面が表示されます。

TR3RWManager		– 🗆 X
ファイル(F) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定:	コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログニ コマンド 連売インペンドリ RDL00P オートスキッン	ReadBytes/WiteBytes インターフェース設定 Interface	データらりア〈F リ〉
受信データー覧 送受信ログ	インターフェースの設定	
	リーダライタ接続インターフェース ● シリアルインターフェース ○ LAIHインターフェース シリアルインターフェース LAIHインターフェース	
	シリアルボート番号 通信速度	
	COM1 ○ 9600cps ③ 19200cps ○ 38400cps ○ 38400cps ○ 115200cps ※115200cps ※115200cps ※115200cps	
	フロー制成は: 振手順 アパイスマネージャを含水。 リーグライタ白動物後出 回激をれているジリアルボートを測定体変して、リーダライ分との 通信ボートを見つげます。 OK Cancel	

接続しているリーダライタのインターフェースにより、次頁の(3)または(4)の手順で リーダライタと PC を接続します。

RS-232C 接続または USB 接続の場合、(3)をご参照ください。 TCP/IP 接続の場合、(4)をご参照ください。 (3) RS-232C 接続、または USB 接続の場合

[シリアルインターフェース]を選択し、旧機種が接続されている COM ポート(シリアルポート番号) と旧機種のシリアル通信速度を選択します。フロー制御は[無手順]を選択し、[OK]をクリックします。



リーダライタの COM ポートが分からない場合や、正常に通信が開始されない場合には、「TR3RWManager 取扱説明書」の「3.1 RS-232C 通信・USB 通信」をご参照ください。

リーダライタとの通信が正常に開始された場合は、次の画面のように表示されます。 COM ポートのオープンに成功し、リーダライタの ROM バージョンと動作モードの読み取りが 行われます。

TR3RWManager[TR3X]	- 🗆 X
ファイル(F) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) EPC(I) リーダ	ライタEEPROM設定(E) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReadBytes/WriteBytes	インターフェース設定 COM12 19200bps
コマンド 速装インベン州 RDLOOP オートスキャン EPCインベン州 EPCインベン州 ReadBytes_ Wit	eBytes ቻ - ቃዕ/ፓ (F9)
受信データー覧 送受信口グ	
04/06 14:38:43.478 [cmt] /* COMボートのオープン */	
04/06 14:38:43.494 [cmt] COMボートのオーブンに成功しました。	
04/06 14:38:43.494 [cmt] 通信速度 : 19200bps	
04/06 14:38:43.494 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */	
04/06 14:38:43.494 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 0D	
U4/U6 14:38:43.681 [recv] U2 UU 3U UA 9U 31 3U 37 3U 34 52 46 3U 33 U3 E6 UU N4/N6 14:38:43.681 [rmt] ROMバージョン : 1.07 OTREO3	
04/06 14:38:43.713 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */	
04/06 14:38:43.713 [send] 02 00 4F 01 00 03 55 0D	
04/06 14:38:43.728 [recv] 02 00 30 09 00 00 18 00 00 00 00 03 56 0D	
U4/U0 4:38:43.728 [cmt] リーダブイダ動TFモート : コマントモート 04/U6 4:38:43.728 [cmt] アンチョリジョン ・ 筆効	
04/06 14:38:43.728 [cmt] 読み取り動作 : 連続読み取り	
04/06 14:38:43.728 [cmt] ブザー :鳴らす	
04/06 14:38:43.728 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ	
U4/U6 14:38:43.728 [cmt] 週1目2E度 : 192UUbps	

(4) TCP/IP 接続の場合

[LANインターフェース]を選択し、旧機種に割り振られている IP アドレスと TCP ポート番号を入力し、 [OK]をクリックします。

※事前にPC側のネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスクの設定)を行う必要があります。



PC 側のネットワーク設定の方法が分からない場合は、「TR3RWManager 取扱説明書(据置型/モジュール製品編)」の「3.2 TCP/IP 通信」をご参照ください。

リーダライタの IP アドレスは、御社のシステム担当者にご確認ください。

リーダライタとの通信が正常に開始された場合は、次の画面のように表示されます。 コネクションの確立に成功し、リーダライタのROMバージョンと動作モードの読み取りが行われます。

TR3RWManager[TR3X]	- 🗆 X
ファイル(F) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) EPC(I) リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定(C)	へルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ BeadButes AltiteButes AttiteButes インターフェース設定	192.168.0.1 9004
コマンド 道袋インペン州 RDLOOP オートスキャン EPCインペン州 EPCインペン州 ReadBytes WriteBytes	データクリア (F9)
受信データー覧 送受信ログ	
04/09 15:56:56.346 [cmt] /* コネクションの確立 */	
04/09 15:56:56.862 [cmt] コネクションの確立に成功しました。	
04/09 15:56:56.862 [cmt] IPアドレス:192.168.0.1	
04/09 15:56:56.862 [cmt] ポート番号 : 9004	
04/09 15:56:56.862 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */	
04/09 15:56:56.862 [send] 02 00 4F 01 90 03 F5 00	
04/00 13:00:00:30+040 [UIII] /* ソーメンイン(2011年二十〇〇の元の取文ジャイ)	
04/03 13:50:50:30 40 [sena] 02 00 47 01 00 03 53 00 10 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00	
04/09 15:56:56:88/ [recv] 02 00 30 09 00 00 00 18 00 00 00 03 56 00	
U4/U9 15:56:56:98/ [cmt] リータライダ動作モード : コマンドモード	
04/09 15:56:56.987 [cmt] アンチコリジョン : 無効	
04/09 15:56:56.987 [cmt] 読み取り動作 : 連続読み取り	
┃04/09 15:56:56.987 [cmt] ブザー :鳴らす	
┃04/09 15:56:56.987 [cmt] 送信データ :ユーザデータのみ	
04/09 15:56:56.987 [cmt] 通信速度 : 19200bps	

1.5 旧機種で EEPROM 設定を保存する

旧機種のリーダライタ内部の EEPROM に書き込まれた内容をファイルに出力する方法を説明します。

(1) TR3RWManager のメニューバーより、[リーダライタ EEPROM 設定] - [EEPROM 設定値の保存]を 選択します。

※リーダライタの動作モードもそのまま引き継ぎする際は、「コマンド」ボタンは押さない ようにしてください。 押してしまった場合、一度リーダライタの電源を切って再度接続し直すか、 メニューバーの[リーダライタ制御コマンド] - [リスタート]をクリックしてください。

TR3RWManager				- 🗆 X
ファイル(F) リーダライタ制御コマン	ド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T)) リーダライタEEPROM設定(E) EEPROM随是設定(A)	症(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード 連続インペント! コマンド 連続インペント! RDL 受信データー覧 送受信ログ	現一ド 設定ダイアログ ReadBytes/WriteBytes LOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	EEPROM詳細設定(P) アドレス指定読み取り(C) アドレス指定読み取り(C)	<mark>インターフェース</mark> 設定	192.168.0.1 9004 データクリア(F9)
04/16 13:11:02.141 [cmt] 04/16 13:11:02.672 [cmt] 04/16 13:11:02.672 [cmt] 04/16 13:11:02.672 [cmt] 04/16 13:11:02.672 [cmt] 04/16 13:11:02.672 [send] 04/16 13:11:02.659 [recv] 04/16 13:11:02.659 [cmt] 04/16 13:11:02.691 [cmt] 04/16 13:11:02.691 [send] 04/16 13:11:02.938 [cmt] 04/16 13:11:02.938 [cmt]	<pre>/* コネクションの確立 */ コネクションの確立に成功しました。 IPアドレス : 192.168.0.1 ポート番号 : 9004 /* ROW/i・ジョンの読み取り */ 02 00 4F 01 90 03 E5 00 02 00 30 0A 90 31 33 37 31 31 30 39 30 38 03 ROW/i・ジョン : 1.37 110908 /* リーダライタ動作モードの読み取り */ 02 00 4F 01 00 03 55 00 02 00 30 09 00 50 00 18 00 00 00 00 00 03 A6 リーダライタ動作モード : 連続たみ取り デザー : 鳴らす 送信データ : ユーザデータのみ 通信速度 : 19200bps</pre>	EEPROM設定他の保存(E) 9D 0D 0D - f ²		

(2) リーダライタの EEPROM に「自動読み取りモード」の動作モード設定が書き込まれている場合、 以下のメッセージが表示されます。

※「コマンドモード」の場合は表示されません。

アンテナの交信エリア内にタグが存在しないことを確認してから[OK]をクリックします。



(3) EEPROM 詳細設定の画面が開くので、[設定保存/復元]をクリックします。

※EEPROM 設定値の保存ボタンより EEPROM 詳細設定メニューに入った場合、 他の設定ボタンはグレーダウンしており、選択できないようになっています。

OMConf				
		EEPROM詳細設定		
	EEPROM設定一覧		_	
●EEPROM設定一覧	設定内容	設定値	設定内容	設定値
	汎用ポート1の機能	汎用ポート	リーダライタ動作モード	連続インベントリモード
	汎用ポート2の機能	汎用ポート	リーダライタ動作モード - アンチコリジョン	無効
	汎用ポート3の機能	汎用ポート	リーダライタ動作モード - 読み取り動作	連続読み取り
リータフイダ動作モード設定	汎用ポート7の機能	ブザー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - ブザー	鳴らす
	汎用ポート3の機能選択	RS485制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - 送信データ	ユーザデータのみ
RFダク動作モード設定	汎用ポート1の入出力設定	出力	リーダライタ動作モード - 通信速度	19200bps
辺田ぞこに記つ	汎用ポート2の入出力設定	出力	RFタグ動作モード - 符号化方式	ISO15693(1/4)
加加小一下設定	汎用ポート3の入出力設定	出力	RFタグ動作モード - 変調度	10%
マッチャーク	汎用ポート4の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - サブキャリア	デュアルサブキャリア(FSK)
////切自設定	汎用ポート5の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号	1
冬種铅完1	汎用ポート6の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取りデータ長	4
	汎用ポート7の入出力設定	入力	アンチコリジョンモード	通常処理モード
各種設定2	汎用ポート8の入出力設定	入力	AFI値の設定 (HEX)	0
B 12077-2-	汎用ポート1の初期値	0	自動読み取りモード動作時のAFI指定	無効
	汎用ポート2の初期値	0	RFタグ通信コマンドのリトライ回数	1
	汎用ポート3の初期値	0	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定	無効
設定保存/復元	汎用ポート4の初期値	1	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	無効
	汎用ポート5の初期値	1	ノーリードコマンドの設定	無効
	汎用ポート6の初期値	1	ブザー種別の設定	檀進
	汎用ポート7の初期値	1	1ブロック当たりのバイト数	475715
	汎用ポート8の初期値	1	BEA/消損信設定	通常設定
	アンテナ自動切替		リーダライタのID (HEX)	0
	接続アンテナ教	1	I-CODE SLIX サポート	· 無なh
	アンテナ自動切替制御信号	通常ポート	BF送信信号設定	記動時ON
	アンテナ自動切替時のアンテナID出力	有効	My-d自動識別時のアクセス方式	Mv=dカスタムコマンド
	カスケード接続	無効	ReadBytes/RDLOOP系の内部処理	ReadSingleBlock
	カスケードポート1の接続アンテナ数	1		
	カスケードポート2の接続アンテナ教	0		
	カスケードボート3の接続アンテナ数	0		
設定終了	カスケードボート4の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート5の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート6の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート7の接続アンテナ数	0		
	カフたことが一日の知識ののフラフラス	0		

(4) [設定保存]ボタンをクリックします。

EEPROMConf	×		
EEPROM詳細設定			
EEPROM設定一覧	設定保存/復元		
リーダライタ動作モード設定 RFタグ動作モード設定	EEPROMの設定値をファイルに保存します。		
· ·	設定の復元		
アンテナ切替設定	EEPROMの設定値をファイルから復元します。現在の設定値は上書きされます。		
· 各種設定1	設定復元		
. 各種設定2			
設定終 <u>了</u>			

(5) 設定ファイルの保存先を入力し、[保存]ボタンをクリックします。 ※設定ファイルの拡張子は、「***. tr3eep」で保存されます。

💀 保存先のファイル	を選択してください						×
🗧 🔶 👻 🛧 📙	> PC > ドキュメン	ント > EEPROM設定ファイル			~ ∂	EEPROM設定ファイルの	検索・ク
整理 ▼ 新しいフ	ォルダー					10 = = = 10 = = =	- ()
	名前	^	更新日時	種類	サイズ		
× 9199791							
PC			検茶染件に一致する	り現日はありません。			
👃 ダウンロード							
📃 デスクトップ							
🗐 ドキュメント							
📰 ピクチャ							
📕 ビデオ							
🎝 ミュージック							
🏪 OS (C:)							
👝 Data (D:)							
💣 ネットワーク							
-							
ファイル名(N):	default.tr3eep						~
ファイルの種類(T)・	TR3設定ファイル(* tr3ee	201					~
ファイルの/主人(1):	Those AL 7 M JV ("Itroee	P)					~
* フォルダーの非妻	-					(保存(S) キ・	ャンセル
~ 27709-009Fax						1000	

(6) ファイルが保存されると以下のメッセージが表示されます。



(7) EEPROM 詳細設定の画面で[設定終了]をクリックして画面を閉じ、初期画面のメニューバーで [ファイル] - [終了]を選択して TR3RWManager を終了します。

💹 TR3RWManager — 🗆	×
ファイル(F) リーダライタ制即コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
受信データー 算表示情報 インボート(1) ダイアログ_ インターフェース設定 192.168.0.1 終了(X) ReadBytes/WriteBytes F. タダガア (F.9) アーダグガア (F.9)	9004
受信データー覧 这受信ログ	
<pre>04/16 13:11:02.672 [cmt] ボート器号:9004 04/16 13:11:02.672 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 04/16 13:11:02.672 [cmt] 02 00 4F 01 00 03 E5 00 04/16 13:11:02.859 [recv] 02 00 30 0A 90 31 33 37 31 31 30 39 30 38 03 90 00 04/16 13:11:02.859 [cmt] ROMバージョン:1.37 110908 04/16 13:11:02.891 [cmt] * リーダライタ動作モードの読み取り */ 04/16 13:11:02.938 [cmt] 02 00 4F 01 00 03 55 00 04/16 13:11:02.938 [cmt] リーダライタ動作モード ご連続インベントリモード 04/16 13:11:02.938 [cmt] リーダライタ動作モード:連続インベントリモード 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブーチョイタ動作モード:連続読み取り 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブー : 鳴らす 04/16 13:11:02.938 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ 04/16 13:11:02.938 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ 04/16 13:11:02.938 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブー : 196.57 04/16 13:11:02.938 [cmt] メリーダライタ動作モードの読み取り */ 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブー : 196.57 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブー : 196.57 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブー : 192.00bps 04/16 13:11:02.938 [cmt] ブー : 192.00bps 04/16 13:29:38.626 [cmt] /* リーダライタ動作モード : 連続インベントリモード 04/16 13:29:38.657 [cmt] ワーガライタ動作モード : 連続イントリモード 04/16 13:29:38.657 [cmt] ワーガライタ動作モード : 連続インベントリモード 04/16 13:29:38.657 [cmt] ワーガライタ動作モード : 連続イントリモード 04/16 13:29:38.657 [cmt] ワンチョリジョン : 無効 04/16 13:29:38.657 [cmt] ワンチョリジョン : 無効</pre>	^
U4/16 13:29:38.657 [cmt] フワー :鳴らす 04/16 13:29:38.657 [cmt] 送信データ :ユーザデータのみ 04/16 13:29:38.657 [cmt] 通信速度 :19200bps	~

(8) 旧機種の電源を切り、PCとリーダライタの接続を切ります。

※USB 接続の場合は USB ケーブルを、RS-232C 接続または TCP/IP 接続の場合には AC アダプタを 抜きます。

1.6 新機種で EEPROM 設定を復元する

前項でファイルに出力した EEPROM 設定を新機種で復元する方法を説明します。

 新機種を PC に接続し、TR3RWManager を起動してリーダライタと PC の接続を確立します。 TR3RWManager の起動及びリーダライタとの接続の方法は、「1.4 旧機種を PC と接続する」を ご確認ください。

【LAN 接続のリーダライタ使用時の注意点】

新機種をLANインターフェースで使用する場合、IPアドレスおよびTCPポート番号の初期値は 以下の通りとなっています。 また リーダライタのIPアドレスが分からなくなった場合や 亦更する場合は IPS at 2 を

また、リーダライタの IP アドレスが分からなくなった場合や、変更する場合は、IPSet2 を 使用してください。

型式	IP アドレス	TCP ポート番号	IP アドレスの
	初期値	初期値	確認・変更ツール
TR3X-LN01 TR3X-LDUN01-4	192. 168. 0. 1	9004	IPSet2

(2) メニューバーから[リーダライタ EEPROM 設定] - [EEPROM 詳細設定]をクリックします。

TR3RWManager[TR3X]		- 🗆 X
ファイル(F) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) EPC(I)	リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定	を(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ_ ReadBytes/Writ コマンド 遠応インペン/リ RDLOOP オートスキャン EPCインペン/リ EPCインペン/リ ReadBytes/Writ	EEPROM簡易設定(A) EEPROM詳細設定(B)	<mark>ース設定</mark> 192.168.0.1 9004 データクリア (F9)
受信データー覧 送受信ログ	 アドレス指定読み取り(C) アドレス指定書き込み(D) 	
04/17 14:05:15.924 [cmt] ROMバージョン : 1.07 0TRF03 04/17 14:05:15.955 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */	EEPROM設定値の保存(E)	^
04/17 14:05:15.955 [send] 02 00 4F 01 00 03 55 0D 04/17 14:05:16.002 [recv] 02 00 30 09 00 00 00 00 00 00 00 03 56 0D		
U4/17_14:U5:16.0U2_[cmt] リータライダ動作モート : コマントモート O4/17_14:05:16.002_[cmt] アンチコリジョン : 無効		
U4/17_14:U5:16.0U2_[cmt] 読み取り動作 : 連続読み取り O4/17_14:05:16.002_[cmt] ブゲー :鳴らす :鳴らす O4/17_14:05:16.002_[cmt] 逆信ニーク - コーザニークのコ		
04/17 14:05:16.002 [cmt] 通信速度 : 19200bps 04/17 14:05:28.002 [cmt] 通信速度 : 19200bps		
04/17 14:05:23.889 [send] 02 00 4F 01 00 03 55 0D 04/17 14:05:23.820 [send] 02 00 30 09 00 00 01 18 00 00 00 03 56 0D		
04/17 14:05:23.920 [cmt] リーダライタ動作モード : コマンドモード 04/17 14:05:23.920 [cmt] アンチコリジョン : 無効		
04/17 14:05:23.920 [cmt] 読み取り動作 : 連続読み取り 04/17 14:05:23.920 [cmt] ブザー :鳴らす		
04/17 14:05:23.920 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ 04/17 14:05:23.920 [cmt] 通信速度 : 19200bps		
04/17 14:05:23.967 [cmt] /* \$6700互換モード設定の読み取り */ 04/17 14:05:23.967 [send] 02 00 4F 01 79 03 CE 0D		
04/17 14:05:23.998 [recv] 02 00 30 02 79 00 03 B0 0D 04/17 14:05:23.998 [cmt] \$6700互換モード設定 : 通常モード		
		¥

(3) EEPROM 詳細設定の画面になりますので、[設置保存/復元]のタブを選択し、[設定復元]を クリックします。

EEPROMConf	x
	EEPROM詳細設定
EEPROM設定一覧	設定保存/復元 設定の保存 EEPROMの設定値をファイノルに保存します。 設定保存
リーダライタ動作モード設定 REタグ動作モード設定	
<u>バ用ホート設定</u> アンテナ切替設定 各種設定1	設定の復元 EEPROMの設定値をファイルから復元します。現在の設定値は上書きされます。
<u>各種設定2</u>	axAc(2) L
●設定保存/復元	
<u>設定終了</u>	

(4) 旧機種から出力した EEPROM 設定ファイル(拡張子 ***. tr3eep)を選択して[開く]をクリックします。

💀 復元元のファイルを選択し	ってください				×
← → · ↑ → PC	› ドキュメント › EEPROM設定ファイル	~ 1	³ EEPROM設定フ	アイルの検索	9
整理 ▼ 新しいフォルダー				= •	?
▲ カイッカ マカセニ	名前	更新日時	種類	サイズ	
	TR3-N002C-8.tr3eep	2018/04/16 13:28	TR3EEP ファイル	9 KB	
PC	TR3-N002C-8_FRAM.tr3eep	2018/04/16 14:46	TR3EEP ファイル	9 KB	
🚽 ダウンロード	TR3-N002C-8_V330.tr3eep	2018/04/16 14:40	TR3EEP ファイル	9 KB	
🔜 デスクトップ					
🚆 ドキュメント					
■ ピクチャ					
ビデオ					
ミュージック					
🖕 OS (C:) 🗸					
ファイルキ	톱(N): TR3-N002C-8_V330.tr3eep		TR3設定ファイル(開く(O)	*.tr3eep) キャンセル	~

(5) 正常に EEPROM 設定が上書きされた場合には、以下のメッセージが表示されます。 引き続き[1.7 項]をご参照頂き、設定の確認・変更を行います。



※以下のメッセージが表示された場合、旧機種と新機種で EEPROM 設定の読み書きに使用 した TR3RWManager のバージョンが異なっている場合が考えられます。

必ず Ver.3.50 以降の同じバージョンの TR3RWManager を使用して旧機種の EEPROM 設定を保存し、 新機種に移行してください。

Error		×
×	XMLファイルのフォーマットが不正です。 D:¥default.tr3eep	
	[エラー詳細] System.Xml.Schema.XmlSchemaValidationException: 要素 'EEPROMOther2Info' には不完全な内容が含まれています。必要とさ れる要素は 'RFLevel' です。 場所 System.Xml.Schema.XmlSchemaValidator.CompleteValidationEr ror(ValidationState context, ValidationEventHandler	
	eventHandler, Object sender, String sourceUri, Int32 lineNo, Int32 linePos, Boolean getParticles) 場所 System.Xml.Schema.XmlSchemaValidator.InternalValidateEndEl ement(XmlSchemaInfo schemaInfo, Object typedValue) 場所 System.Xml.XsdValidatingReader.ProcessEndElementEvent() 地質5 System Xml.XsdValidatingReader.ProcessEndElementEvent()	
	場所 System.Xml.XsovalloatingReader.Read() 場所 TR3NET2008Libinternal.xmlEEPROMConf.ReadXmlFile(String filepath)	
	ОК]
Error	×	
8	設定変更時にエラーが発生しました。	
	ок	

機種ごとの必須確認項目を手動で確認・変更する 1.7

「1.5 旧機種で EEPROM 設定を保存する」および「1.6 新機種で EEPROM 設定を復元する」の手順で 旧機種から EEPROM 設定を引き継いだ場合、旧機種で保持している設定は引き継がれますが、旧機種に は無い新機種固有の設定が初期値と変わってしまう可能性があるため、一部の設定を手動で変更する必 要があります。

変更する箇所は旧機種により異なりますので、お使いの機種に該当する箇所のみ参照してください。

EEPROM 詳細設定の左側のメニューから確認したい設定項目を選択し、設定を個別に確認・変更します。

MConf				
		EEPROM詳細設定		
	EEPROM設定一覧			
●EEPROM設定一覧	設定内容	設定値	設定内容	設定値
	汎用ポート1の機能	LED制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード	コマンドモード
	汎用ポート2の機能	トリガー制御信号入力ポート	リーダライタ動作モード - アンチコリジョン	無効
	汎用ポート3の機能	機能選択	リーダライタ動作モード - 読み取り動作	連続読み取り
-ダライタ動作モード設定	汎用ポート7の機能	ブザー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - ブザー	鳴らす
ne h Mitte (keel juietarin	汎用ポート3の機能選択	エラー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - 送信データ	ユーザデータのみ
RE处理的作用于的设定	汎用ポート1の入出力設定	入力	リーダライタ動作モード - 通信速度	19200bps
の田平山に和中	汎用ポート2の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 符号化方式	ISO15693(1/4)
	汎用ポート3の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 変調度	10%
マッチナ切林設定	汎用ポート4の入出力設定	出力	RFタグ動作モード - サブキャリア	デュアルサブキャリア(FSK)
	汎用ポート5の入出力設定	出力	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号	0
各種設定1	汎用ポート6の入出力設定	出力	RDLOOPモード読み取りデータ長	4
L IZUANCI	汎用ポート7の入出力設定	入力	アンチコリジョンモード	高速処理モード1
各種設定2	汎用ポート8の入出力設定	出力	AFI値の設定 (HEX)	0
	汎用ポート1の初期値	1	自動読み取りモード動作時のAFI指定	無効
	汎用ポート2の初期値	1	RFタグ通信コマンドのリトライ回数	1
	汎用ポート3の初期値	1	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定	無効
設定保存/復元	汎用ポート4の初期値	0	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	無効
	汎用ポート5の初期値	0	ノーリードコマンドの設定	無効
	汎用ポート6の初期値	0	ブザー種別の設定	標準
	汎用ポート7の初期値	1	1ブロック当たりのバイト数	4/5/LF
	汎用ポート8の初期値	1	RFタグ通信設定	诵常設定
	アンテナ自動切替	有効	リーダライタのID (HEX)	0
	接続アンテナ数	0	I-CODE SLIX サポート	「本設定値は無効なフィール
	アンテナ自動切替制御信号	通常ポート	RF送信信号設定	起動時OFF(コマンド受付以
	アンテナ自動切替時のアンテナID出力	有効	My-d自動識別時のアクセス方式	My-dカスタムコマンド
	カスケード接続	無効	ReadBytes/RDLOOP系の内部処理	ReadSingleBlock
	カスケードボート1の接続アンテナ数	0	S6700互換于一ド設定	诵常
	カスケードボート2の接続アンテナ数	0	アンテナ機能	LED/SW機能無効
	カスケードボート3の接続アンテナ教	0	送信出力	300mW
設定終了	カスケードボート4の接続アンテナ数	0	アンテナ自動切替終了時のレスポンス	返さな()
	カスケードボート5の接続アンテナ数	0	UIIバッファリング処理(重複チェック)	行わない
	カスケードボート6の接続アンテナ数	0	EPC自動読取モード時の読取枚数	返さな()
	カスケードボートアの接続アンテナ料	0		needed to the second
	カスケードボート8の接続アンテナ数	0		

1.7.1 各種設定2

新機種の「各種設定 2」の以下の項目を確認し、必要に応じて変更します。 変更後に[設定]ボタンを押すことで EEPROM への書き込みが行われます。

※青色 □ 部分は、旧機種から新機種へ自動で引き継がれない項目です。必ず確認頂き、必要に応じて 変更してください。

EEPROMConf		×
		EEPROM詳細設定
	各種設定2	·
<u>EEPROM設定一覧</u>	RF送信信号設定:	起動時OFF(コマンド受付以降ON) ~
	My-d自動識別時のアクセス方式:	● My-dカスタムコマンド
リーダライタ動作モード設定		○ ISO15693オブションコマンド
<u>RFタグ動作モード設定</u>	ReadBytes/RDLOOP系の内部処理:	
汎用ポート設定		
アンテナ切替設定		
<u>各種設定1</u>	S6700互換モード設定:	● 通常 ○ S6700互換
● <u>各種設定2</u>	アンテナ機能:	LED/SW4機能無効 V
	送信出力:	300mW ~
設定保存/復元	アンテナ自動切替終了時のレスポンス:	 返さない 返す
	UIJバッファリング処理(重複チェック):	 行わない 行う
	EPC自動読取モード時の読取枚数:	 返さない 返す
		設定
<u>設定終了</u>		
	<	× >

【アンテナ機能】

旧機種では[アンテナ機能]に相当する機能はハードウェアの内部実装で行っていたため、 EEPROM 設定に該当する設定がありませんでした。

旧機種で EEPROM 設定の保存を行った場合、[アンテナ機能]に該当する項目が無いため、 デフォルト値の[LED 機能有効]が設定されます。旧機種から新機種へ EEPROM 設定の引き継ぎを 行った際には、[アンテナ機能]を手動で選択する必要があります。

以下の表より、旧機種の型名から適切なアンテナ機能を選択してください。

型名に[-S]が付いている機種は[SW機能有効]、型名に[-L]が付いている機種は[LED機能有効]、 多 ch 切替タイプの機種は[LED/SW機能無効]を選択します。

	アンテナ機能	1ch タイプ	多ch切替タイプ
	[SW機能有効]を選択	TR3-LD003C-S TR3-LN003D-S	_
型	[LED機能有効]を選択	TR3-LD003C-L TR3-LN003D-L	_
名	[LED/SW機能無効]を選択	_	TR3-LD003D-4 TR3-LD003D-8 TR3-LN003D-8

1.8 S6700 互換モードに切り替える

新機種と旧機種では、一部のコマンドで仕様や応答の動作が異なるため、機種置き換えを行うことで お客様のアプリケーションが正常に動作しなくなる場合があります。

その場合、S6700互換モードに切り替えることにより、旧機種と同等の動作を行うことが可能となり ます。但し、新機種で新しく追加された一部の機能は利用出来なくなります。

新機種で追加されたコマンド仕様は、以下のWebサイト上の関連資料

「ロングレンジリーダライタ TR3/TR3Xシリーズの比較」の[3. コマンド機能]をご確認ください。 [URL] http://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_list/#11

通常モードとS6700互換モードのコマンドの応答の仕様の違いについては、「TR3Xシリーズ通信プロト コル説明書」の[3.5 S6700互換モード設定]をご確認ください。

●S6700互換モードへの切り替えの方法

[EEPROM詳細設定]の[各種設定2]メニューで、[S6700互換モード設定: S6700互換]を選択し、 [設定]をクリックします。

EEPROMConf			x
		EEPROM詳細設定	
	各種設定2		^
EEPROM設定一覧	RF送信信号設定:	起動時OFF(コマンド受付以降ON) ~	
	My-d自動識別時のアクセス方式:	Му-dカスタムコマンド	
リーダライタ動作モード設定		○ ISO15698オプションマンド	
RFタグ動作モード設定	PoodPuteo /PDI OOP系の内在R如理・		
アンテナ切替設定			
<u>各種設定1</u>	S6700互換モード設定:	 ○ 通常 ● S6700互換 	
●各種設定2	アンテナ機能:	LED/SW機能無効 ~	
	送信出力:	300mW 🗸	
設定保存/復元	アンテナ自動切替終了時のレスポンス:	● 返さない ○ 返す	
	UII/バッファリング処理(重複チェック):	④ 行わない 〇 行う	
	EPC自動読取モード時の読取枚数:	 ・返さない ・ ・返す 	
		設定	
設定終了			
	4		۷
1	1.		

「各種設定 2」で[S6700 互換モード設定]を[S6700 互換]に変更した場合、

「各種設定1」の[ICODE SLIX サポート]の[有効]/[無効]の設定が併せて必要となります。 ※[S6700 互換モード設定]が[通常]の場合には、[I-CODE SLIX サポート]の行が表示されません。 以下の手順で旧機種の[ICODE SLIX サポート]の設定を確認し、新機種の設定を手動で変更して ください。

旧機種で[ICODE SLIX サポート]の[有効]/[無効]の設定は、以下の通り確認します。

旧機種から出力した EEPROM 設定ファイルをテキストエディタ(メモ帳など)で開き、 旧機種の[ICODE SLIX サポート]の[有効]/[無効]の設定値を確認します。



検索ワードの例:「SLIX」

<SLIXSupport>と </SLIXSupport>の間の数字が「0」の場合は[無効]、「1」の場合は[有効]に 設定されています。上記例では[無効]に設定されています。

新機種の EEPROM 詳細設定の[各種設定 1]を開き、[ICODE SLIX サポート]の[有効]/[無効]の 設定を旧機種と合わせます。

Komeoni							
EEPROM詳細設定							
	各種設定1						
<u>EEPROM設定一覧</u>	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号:	¢ ()					
	RDLOOPモード読み取りデータ長:	4 🜲					
リーダライタ動作モード設定	アンチコリジョンモード:	高速処理モード1	~				
RFタグ動作モード設定	AFI値の設定 (HEX):	0 🜩					
汎用ポート設定	自動読み取りモード動作時のAFI指定:	◉ 無効	○ 有効				
<u>アンテナ切替設定</u>	RFタグ通信コマンドのリトライ回数:	1 🜩					
● <u>各種設定1</u>	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定:	◉ 無効	○ 有効				
各種設定2	自動読み取りモード動作時のトリガー信号:	◉ 無効	○ 有効				
	ノーリードコマンドの設定:	◉ 無効	○ 有効				
設定保存/復元	ブザー種別の設定:	● 標準	○ ブザー音大				
	1ブロック当たりのバイト数:	● 4/37ト	08/11				
	リーダライタのID (HEX):	0 🜩		_			
	I-CODE SLIX サポート:	◉ 無効	○ 有効				
				1			
			設定				
設定終了							
	<						

旧機種で[ICODE SLIX サポート]が[有効]に設定されている場合は、新機種を[S6700 互換モード]で使用 する際には、新機種でも必ず[ICODE SLIX サポート]を[有効]に設定してください。



Ver No	日付	内容
1.00	2018/5/8	新規作成

タカヤ株式会社 事業開発本部 RF 事業部

[[]URL] <u>http://www.takaya.co.jp/</u>

[[]Mail] <u>rfid@takaya.co.jp</u>

仕様については、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。